

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 29 年 11 月 15 日現在

(専技情報より抜粋)

◇大豆◇

収穫は 11 月 10 日頃から開始され、最盛期は平年並みの 11 月中下旬の見込みです。収穫終了は県南地域で 12 月上旬、県北地域で 12 月中旬となる見込みです。

収量は平年並の見込みで、青立ち株の発生は少ないです。青立ち株や大型雑草は汚粒発生や収穫の支障となるため必ずほ場外へ持ち出しましょう。最下着莢高に留意しながら、収穫時に土をかき込まないように高さを調整して収穫しましょう。倒伏しているほ場はリフターキットなどを使用し、刈取りロスの軽減に努めましょう。

◇麦類◇

現在弾丸暗渠等、播種前の排水対策を実施中で、播種最盛期は 11 月下旬になる見込みです。排水対策、土作り、雑草対策を実施してから播種を行いましょ。早めの耕起を控え、ほ場の土壌水分や天候を見極めて適期播種を行いましょ。二条大麦の早播きは収量、品質が低下しやすいため実施しないようにしましょ。

◇イチゴ◇

出荷は 11 月 8 日頃から始まっています。平年より 7 日程度遅く、出荷量は 11 月下旬から本格的に増加する見込みです。果房がやや弱く、小玉傾向ですが食味は良好です。生育は 10 月中旬の日照不足と 10 月の多雨による土壌の過湿により例年より遅れており、株はやや充実不足となっています。2 番果房の分化は例年並みで、大きな出荷の谷は生じない見込みです。

適正な草勢を維持するために、状況に応じた温度や電照管理、摘果などを徹底するほか、炭疽病が多発したほ場や親株が不足する場合は秋ランナーを活用して親株を確保しましょ。

◇施設キュウリ◇

抑制作型の出荷は、11 月下旬から徐々に減少し 12 月まで出荷される見込みです。うどんこ病やべと病、アザミウマ類、コナジラミ類の発生が見られます。促成栽培の定植は 10 月中下旬が中心です。早期定植では 10 月中旬の寡日照により軟弱傾向の生育でしたが、その後の天候回復により、現在の生育は順調です。促成作型では一部でうどんこ病の発生が少しみられますが、病害虫の発生は全体的に少ない傾向です。

急な低温に備え、加温準備を行うとともに、ハウスの密閉度を高め、被覆の多層化により、ハウスの保温性を向上させましょ。草勢を見ながら摘心、摘葉を行い、病害虫の防除対策を講じましょ。

◇ブドウ◇

10月で出荷がほぼ終了し、出荷量は前年より多く良食味でしたが、トンネル、露地栽培では高温と着果過多により着色が悪く収穫時期が遅れました。病害虫は黒とう病、晚腐病が一部で発生し、8月下旬以降は一部でカメムシの被害も見られました。基肥を施用し、病害の耕種的防除として落葉の処分、せん定時の巻きひげの除去を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

秋出荷作型（10～11月出荷）は10月上旬から出荷開始しました。10月の日照不足により生育・出荷が遅れています。ブラスチング（花蕾の枯死）の発生により、秀品率が低下しましたが、需要期の出荷で単価は維持されました。平年に比べて11月の出荷割合が高くなるとともに、12月まで出荷が続く見込みです。9月下旬定植の春出し栽培の生育は概ね順調です。

11月出荷分は最低温度15℃以上を確保し、開花を促進させましょう。日中は換気に努め、茎葉の締まった株作りを行い、斑点病、灰色かび病の対策を徹底しましょう。

◇豚・鶏◇

10月の豚枝肉価格は、例年通り下降期に入ったものの、前年価、過去5年平均を上回る水準を維持しています。鶏卵価格は例年通り上昇期に入りましたが、過去5年平均を下回る水準が続いています。寒冷期を迎えるため、鳥インフルエンザや豚のPED発生予防のため、農場の衛生管理を徹底しましょう。